

# 令和 7 年度 第 1 回 長泉町行財政変革会議

## －議事録骨子－

日時：令和 7 年 11 月 25 日（火）15:00～17:00

場所：長泉町役場 西館 4 階 大会議室

### 出席委員

小泉祐一郎委員、中村健委員、千葉寿子委員、中山勝委員、堀部かすみ委員  
(以上 5 名)

### 議題 長泉町の行財政状況について

○資料 1 長泉町の行財政状況について事務局から説明

○委員からの主な意見

#### 住民との認識の共有化について

- ・総合計画は、町の方向性を町民の皆さまと共有していくということだと思う。町の強みや、何を残し何を削るのかということのために、まずは現状分析をしっかりされた方が良いと思う。
- ・町の行財政の状況を町民の皆さまに認識してもらうことが一番の課題であると思う。
- ・長泉町はずっといい時代が長かったから、そういう変化に町民の皆さまが対応できないというなら、「いい町だから大丈夫、何とかなるからこの町は」と思い込んでるところも変わらなければならないと思う。

#### 町の施策の方向性について

- ・新たに総合計画をつくる時、これからの戦略として、いらないものはいらないとする引き算の考え方が必要。全ての町民の皆さまに対してということはもちろん重要だが、優先度と緊急度に分けて、その中で戦略的に取捨選択していく必要がある。
- ・町の方向性をどちらの方向に向けるかというベクトルのようなものを作った方が良い。少し前なら、「子育てするなら長泉」、今なら「ちょうどいいが いちばんいい」この行財政変革の中で進めていく方向転換のようなものも言葉で入れてく必要があるではと感じた。
- ・例えばまちづくりを仮に地域経営という言葉に置き換えるとすれば、経営だと何をするかということ、うまくいっているものを太らせ、うまくいっていないものは縮小していく、なんなら廃止していくというやり方しかないと思う。
- ・長泉の強みが何で何を太らせていくのかということと、それを太らせるために、不採算部分である、どういうものを削ったり少なくしていったりという部分の整理というか、即ち錦の御旗が必要だと思う。その錦の御旗はみんなが満足するものは難しいと思うが、ある程度納得していただけるような落としどころ、着地点が見出せるような錦の御旗が必要だと思う。

#### 行財政運営委のあり方について

- ・会議名が変革会議になっていて、改革ではなくて変革なので、英語で言うとトランスフォーメーション、土台や柱ごとそっくりやりかえるという話である。みんながひとつになって向かえる方向性というものを打ち出す必要がある。
- ・IT化が進んでくるとオフィスが空いてきたり、人口減少で人がいなくなったり、フロア面積が空いてくる可能性があって、新しい公共施設を作るのではなくて、民間企業と連携してその施設をどう一緒に使うか、シェアするなどといった発想や、行政がもっと小さくなっていくという発想も必要なのでは。
- ・横断的に、今までの仕事のやり方とかルールを変革する。そこを変えることによって全庁的に工夫し、できるだけ経費を抑えて実施可能な手法を検討するなどが重要である。